

子どものトラフィッキング：世界各地の状況

東南アジア

セックス産業の成長と子どもや女性の商品化を背景に、農村部から都市部へ、貧しい国から貧しくない国へ。セックス産業のほか、サービス部門、工業・農業などでの仕事、物乞いや路上の商い、若い女性はメール・オーダー花嫁や家事サービス労働などが行き着く先である。

南アジア

貧困、家族、無知などによって子どもたちが搾取されやすい境遇にある。債務労働の慣行も絡んでいる。商業的性搾取、カーペット・縫製工場や煉瓦窯などの製造業、路上の商い、物乞い、建設現場、紅茶プランテーションなどで働かされる。幼い少年たちは「キャメルキッズ」(ラクダ乗り競争の騎手)や民兵による戦闘員の下働きとして酷使されるケースもある。

南洋州、極東および太平洋地域

セックス産業からの需要を中心とした地域内の貧しい国から豊かな隣国への売買が特徴。メール・オーダー花嫁斡旋事業や、組織的犯罪集団が関わっていることがある。未熟練労働、商業的性搾取、メール・オーダー花嫁・息子として売買されている。

南北アメリカおよびカリブ海地域

この地域の人身売買はようやく知られ始めたばかりであるが、リゾート地での観光関連労働に加え、麻薬や密売品犯罪組織が関わってきている。季節労働、サービス部門の仕事、家事使用人、麻薬の運び屋、商業的性搾取などが行き先である。

西ヨーロッパとバルト諸国

商業的セックスへの需要により、収入と経済的自立の可能性に引かれてやって来る子どもと若者たちがいる。ヨーロッパ内ではほとんど東から西への売買である。比較的貧しいバルト諸国と豊かなスカンジナビア諸都市との間に明白な

人身売買ルートが見られる。物乞い、路上の商い、未熟練労働、商業的性搾取などのために売買されている。

東ヨーロッパ

供給、需要双方の要因により引き起こされている。正常に機能していない社会、深刻さを増している貧困と失業、紛争、よりよい機会への期待などが、子どもたちが人身売買業者の手中に陥る原因となっている。開かれた国境と実在の犯罪ルートや犯罪網によって、人身売買が横行している。未熟練労働、娯楽部門での仕事、商業的性搾取、軽犯罪の手伝いなどが辿り着く先である。

中央アジアおよび CIS (旧ソビエト連邦)

経済不況と社会混乱の影響で正常に機能しなくなっている社会が子どもたちが売られる原因となっており、小規模犯罪も関わっている。サービス産業、娯楽部門での買春やポルノ、メール・オーダー花嫁などのために売買されている。

中東と北アフリカ

労働と商業的性搾取の両方が売買の目的となっている。社会における男女差別が供給要因となる一方、需要は地域により異なる。家事サービス労働や商業的性搾取、少年たちは「キャメルキッズ」や未熟練労働に働かされている。

アフリカ

親が面倒を見られない子どもを親類などに預ける伝統的な習慣の濫用が人身売買の中心である。紛争もその原因で、民兵による誘拐や搾取も行われている。家事サービス労働、自営業の手伝い、商業的性搾取、プランテーション、鉱山、未熟練労働などのために売買されている。

注： 資料の一部を引用される場合には、「出所：ILO資料」と明記して下さい。